

若竹

第五十三号



神道青年四国地区協議会 第十二回神道行法錬成会



遠宮で結ぶ人の輪心の輪
第六十二回神宮式年遷宮

愛媛県神道青年会

事務局 〒796-0065

愛媛県八幡浜市矢野神山510

八幡神社内

TEL 0894-22-0384

FAX 0894-22-2000

ホームページアドレス <http://www.ehimeshinsei.net/>

年頭の御挨拶

愛媛県神道青年会 会長 十亀 博行



新年明けましておめでとございます。まず以て平成二十二年の新春を迎え謹んで聖寿の万歳と皇室の弥栄を御祝い申し上げます、各御社頭の御隆昌、皆様方の御多幸をお祈り申し上げます。

愛媛県神道青年会におきましては、継続的な活動を行う中に連綿と受け継がれてきた「こころ」を未来に伝えると共に、今の時代の流れに沿って取り入れることは取り入れ、より発展性のある会務運営を目指しております。また、会員の研鑽や他地区の青年会会員同志との交流を通じて、新たな可能性を見出せればと考えております。そして、新役員が就任してから約一年が経ちますが、今年度の役員会においては例年になく活発な意見交換や議論が交わされています。お互いが意見を出し合い、その中で最良の方向性を見出すことにより、それぞれの活動に幅がで、また、自分自身の研

鑽に繋がっている事でしょう。私もその心意気を汲み、斯界発展の為、共に邁進していきたいと思います。

さて、皆さんも奉務する神社や各家庭、またそれぞれが所属する各種団体において「長」という役割に就かれている方も多いと思います。この愛媛県神道青年会の会長というのも「長」であります。「長」と言うのはその団体を代表するのは勿論のこと、義務もあり責任もあり、また色々な「判断」をしなければならぬ時が多々あります。私は色々な意見が出る中で最終的な判断を「長」に委ねられ、進むべき道が決定した時は、一丸となつてその成功に向け進んで行くことが重要であると考えます。

しかしながらその結果が「吉」と出るか「凶」と出るかはわかりません。だからこそ、周りの状況や時の流れ、意見を的確に見極め、その断を下さなければなりません。その為には日頃から冷静に周りを見る力・意見を集約し、見極める力を養って行く事が重要になってきます。それはやはり色々な経験から出てくることではないでしょうか。

私達が青年会で経験し、学んでいることは、今すぐに役立つことばかりではありません。せんし、自己満足的な事も有るかもしれませんが、しかし同じ時代を過ごす青年神職が、

現在の在り方を見つめ、未来に向けた想いを語り合う時間というのは「今」という瞬間しかありません。また青年会活動に参加したことがない皆様、同じ時代を歩く青年神職として共に研鑽を深めませんか。そして、膝をつき合わせて共に語り合いませんか。これからも研修会や観月神楽などの活動をこの若竹やホームページを通じてご案内させていただきますので、是非ご参加頂ければ幸いです。

また今般、神道青年四国地区協議会の会長を仰せつかる事となりました。任期は前任者の残任期間となります。過去に二期四年・事務局長、また、理事として地区の末席を汚させて頂いておりましたが、地区会長という責務の重さに身の引き締まる思いであります。しかしながら受けた以上は責任を持って会務を執行して参りますので、今後とも先輩諸賢からの叱咤激励、そして会員皆様のご協力を頂戴し、斯界発展の為に邁進して参りたいと思います。よろしくお願い致します。

結びに当たり、御社頭の御隆盛と皆様方の御健勝をお祈り申し上げますと共に、今年一年が良き年となりますことを心から御祈念申し上げます、年頭の御挨拶とさせていただきます。

県外単位会交流親睦会報告

～ 広島県青年神職会 ～



この度、しまなみ海道開通十周年記念として、広島県青年神職会（以下 広島青神）との交流親睦会が行われました。伊豫豆比古命神社にて正式参拝の後、長曾我部宮司様から講話を頂き、

記念の集合写真を撮影しました。その後懇親会会場へ移動し、途中参加の方も含め広島青神が十三名、愛媛県からは十九名が参加しました。

懇親会が始まると、最初は硬い雰囲気もありましたが、広島青神の柳田会長から「私は縁（えん）を大事にしたいと考えておりますが、宴（えん）の方も大好きです。（中略）来年は是非広島県にお越しください。本日は朝迄宜しくお願い致します。」との言葉も頂き、次第に会場も和み、盛り上がりつつ



いきました。各会員の自己紹介が終わると、各々席も入り乱れ、酒を酌み交わしながら親睦を深めていきました。広島県からは女子神職の方も参加されており、女性ならではの貴重な意見を聞くこともできました。懇親会の最後に十亀会長から「交流会が記念事業にならず、毎年のように行い更に交流を深めていきたいと思えます。」と挨拶があり、その後、一部の広島青神会員からは、早くも来年どの店に案内しようかという声も聞こえてきました。

今回、他単位会と交流することにより、様々な情報交換ができ、同年代の人が違う環境の中で努力していることを再確認し、大変良い刺激を受け、お互いが切磋琢磨できる有意義な会となりました。

最後に遠路遙々お越し頂き、夜遅く（朝早く？）迄お付き合ひ頂きました広島県青年神職会の皆様に紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。

《柳原水祥》

神道青年全国協議会

創立六十周年記念事業

「北方領土の碑」における創立六十周年奉告祭並びに北方領土早期復帰祈願祭に参列して

車窓から見える北方の島々は、愛媛から見える瀬戸内の島々と何ら変わりない。しかしその四島はまだまだ我々のものには帰っていない。近くて遠い北方領土…

今般、標記記念事業が七月二十八（二十九日、北海道は根室の地にて斎行されました。当会からの出席は長曾我部監事と私でありました。私自身道東は二回目でありましたが、根室・納沙布岬は初めてでした。羽田空港にて集合し、今回は神道少年団の子供たちも同行。根室中標津空港到着後はバスにゆられて「北海道立北方四島交流センター」を目指しました。ここからはこの時季滅多に見る事のできない国後島が見えました。ここでは北方領土のビデオを見た後、実際に歯舞群島・勇留島に居住されていました交流センター専門員の高橋孝志様より講話を頂きました。戦前の勇留島・

ソ連の不法占拠から樺太經由で北海道に到着するまで。また、これから未来を担う子供たちへ向けて「守らなければならぬものとは何か…」とのメッセージが発せられました。

その後、根室市内にある金刀比羅神社を正式参拝。前田宮司様のお話では千島列島には六十九の神社があり、そのうち六十五社が北方四島にあった。そのうち択捉島以外の十二社が戦後、島民の努力により北海道へ遷され、そのうち十一社が金刀比羅神社によって守られているとの事。四島復帰となればすぐさまお遷ししたいとおっしゃっていました。

翌日は納沙布岬・金刀比羅神社境内・北方領土の碑にて祈願祭が斎行されました。気温約十六度。風も吹く中ではありましたが、歯舞群島がはつきりと見える中で祭典は八百万の神々のお計らいであったと思います。斎主の祝詞の中では一刻も早い復帰と、国民の領土に対する意識啓発を願い、先輩方から受け継ぎ来た「想い」を参列者一同感ずる事ができました。言葉には魂が宿ります。その祝詞に込められた祈りの言葉が必ずや波立たぬ海を越え、四島に鎮まる先人の魂へと、また国民の心に、そして世界に通じる想いとして伝わると信じます。



今回の祈願祭においては先にも申しましたように「神道少年団」の子供たちも参列しました。今回の祭典を通じ、子供たちが領土について、また日本の未来について何かを感じて頂けたと思います。それ以上に私達は青年神職として参列させて頂き、できる行動は今やらなくてはいけないと感じました。

愛媛という地は北方領土や尖閣諸島・竹島や対馬と言った領土から遠方にある為、民間的には意識が薄い所かもしれません。しかし、声を発して行かなければより意識が希薄になってしまいます。我々も先人達の思いを汲み愛媛の地からできる事を発信していきたいでしょう！

《十亀博行》

神道青年四国地区協議会 第十五回定例総会・研修会

平成二十一年八月六日・七日の両日、高知県高知パレスホテルに於いて「神道青年四国地区協議会 第十五回定例総会並びに研修会」が執り行われました。当会からは十亀会長を始め十名が出席しました。



一日目、総会・研修会に

先立ち、土佐国一宮 土佐神社の荘厳で歴史あるお社に於いて、正式参拝をさせて頂きました。後に、会場を高知パレスホテルに移し、定例総会並びに研修会の開

講式を、高知県神社庁山村庁長様を始め御来賓の方々に御出席賜り執り行いました。

総会は吉川理事の議長により、平成二十一年度会務・決算・監査報告続いて役員改選の報告、平成二十一年度活動計画・予算書案を中心に円滑に進められました。

続いて研修会、今回は「心豊けき國」を守りたい國 日本と題し、基調講演第一講を「我が國の現状」を演題として高知県選出の衆議院議員 中谷 元 先生に、国防の現状、自衛隊の存在意義、現行法での防衛の難しさ等を、元防衛大臣のお立場からご講義頂きました。第一講終了後懇親会へと

移り、高知の美味しいお酒とご馳走を堪能させて頂き、夜は更けて行きました。

翌二日目の第二講は、「土佐民話の神さま」を演題として、土佐民話の会 会長 市原 麟一郎 先生により、紙芝居で高知県内の色々な神に纏わるお話をして頂きました。民話と云うのは、人生模様を口語りで伝えたもので、その地方の方言で語るのが良いと云う事で、先生ご自身も土佐弁でお語りになられ、味わいのある語り口調はどこか懐かしさを感じました。

講演の後、研修会閉講式となり、二日間に於いての研修会を終えました。今回の研修会の主題「心豊けき國」守りたい國 日本「守る」と云う観点から「国」と「文化」、私たちが守って行かなくてははいけない大切な二つを、改めて考える良い機会となりました。

総会・研修会を主管して頂いた高知県神道青年会の皆様に紙面をお借りして御礼申し上げます。定例総会並びに研修会のご報告とさせていただきます。

《田内逸知》



第二十七回観月神楽の夕べ

東温市 三奈良神社

去る九月六日、東温市に鎮座致します三奈良神社において、恒例の観月神楽が開催されました。

三奈良神社は、御鎮座壹千四百年祭を機に、老朽化のすすんだ中拝殿の新築を計画され、「三奈良神社 平成大事業」としてこの度完成。新社殿竣功奉告祭に併せ、観月神楽を同日夕刻開催する運びとなりました。午後六時三十分。新拝殿内・拝殿前は溢れんばかりの多くの方々のご参集を得て、十亀会長の挨拶・三奈良神社 森正史宮司様に御挨拶を頂き、奉納演奏が開始されました。

今回の観月神楽で奉納された演目は次の通りです。

- ・身軀鉦女之舞 (伊予神楽)
- ・浦安の舞 (神楽舞)
- ・越殿楽 (管 絃)
- ・楽器紹介 (雅楽器)
- ・故郷 (管 絃)
- ・陪臚 (管 絃)
- ・悠久の舞 (神楽舞)
- ・弓の舞 (伊予神楽)



御祭神が「天照大神」であることから「身軀鉦女之舞」を先ず奉納。楽器紹介の後、余興として演奏された「故郷」では、ご参集の皆様と共に合唱いたしました。

最後に、森宮司様をはじめ総代の皆様には多大なるお力添えを頂きました事を厚く感謝申し上げます。

《榎部浄之》



第六回 野外体験親睦会

in 成川溪谷

八月十日、今年も愛媛県神道青年会夏の恒例行事、野外体験親睦会が行われました。今年の場所は成川溪谷に決定いたしました。

希望者は前日の九日から宿泊もできるロッジを借り前夜祭ということで、会長ご家族と十亀理事ご家族そして野外体験親睦会担当の三輪田副会長と私が参加しました。



悪天候のため川で楽しく遊んだりのんびり散歩もできませんでしたが、ご家族のみなさんは温泉に入っていたり、雉鍋と猪鍋の準備をみんなで行い、その鍋で楽しい夜をすごしました。

翌日も天候が良くなかったため川辺でのバーベキューは危険と判断し、念のため屋根があるところでバーベキューを行うことにしました。



会員の皆さんが順次お集まりになり、たくさんの肉や魚、そしておいしいお酒を持ち寄っていただき、楽しく飲んで語り合い一層親睦が深まったことと思われます。



天気も次第に回復してきましたが川の流れば急には緩くはなりません。しかし後藤担当理事が流れの緩やかないい場所を見つけ、そこで皆さんと子供たちが楽しく川で遊ぶことができました。



最後にみんなで西瓜割りを行いました。盛り上がり、今年の野外体験親睦会も無事楽しくできました。来年もまたこのような親睦会にしたいものです。沢山の参加をお待ちしています。

《渡部太輔》



平成二十一年度神道青年全国協議会

夏期セミナー

『生成期の現代神道』

『国学皇学と現代神道』

平成二十一年八月二十七日～二十八日、本社本庁大講堂に於いて全国より百名の会員が参集し開催された。

第一講では、國學院大學准教授の松本久史先生より『国学と現代神道』現代国学生活のススメ』と題して、本居宣長の著書を元に、当時の国内での対諸外国への認識度の浅さ等、時代背景、日本の尊貴性を牧歌的に語る宣長の考え方を学び、時処位に応じて過去との結びつきにより理解し、神道の考えを生活の中で実践するよう述べられた。

第二講では、皇學館大学准教授の松本丘先生より『皇学と現代神道』現代皇学生活のススメ』と題して、平泉澄先生の『皇学指要』から『皇学とは、先皇の遺訓を奉じ、先哲の指導を受けて、国体の護持をその本分とする所の敬虔なる学問であり、国学と呼ばれたる範囲よりは、いちじるしく其の区域をひろくする。』又、鎌田純一先生の

『国学と皇学』から『国学とは、皇国に根源的に存し、永遠に伝わるべき古道を明らかにしようとしたもので、皇学とは、皇国に対する強い信念をもち、それを単なる信仰、信念に止めず、その実践をめざした学である。』と、国学と皇学を比較して捉え、古典を繙き、古人との距離を縮め、美風を後世に伝えて行く事が必要であると述べられた。

第三講では、討論として、『国学皇学を如何にして実践するか』と題して、春木会長・上田監事を発題者、松本両先生をコメントーターに迎え、長曾我部副会長の司会で進められた。春木会長からは、現代社会の諸問題、日本人の特質・体質等に論点を見出し、社頭講話を更に探求するべきだと述べられた。上田監事からは、『皇室史』『神宮史』『皇国史観』を元に、歴代天皇の御言葉、御製に見える精神文化を氏子崇敬者に伝え、神宮と国家は一体であり、神宮の栄が国家の繁栄となり、皇国史観を学ぶ事で国体護持に繋がると述べられた。

最後に、日本の事を学んでいくと皇室に辿り着く。皇室の歴史は即ち日本の歴史である。神典を繙いて自分の言葉で表現できる様、社頭講話に生かし、神職としての感覚を研ぎ澄まし、国学・皇学を学ぶべきである。とまとめ、考察する事が実践に繋がると、実践する事が考察に繋がると長曾我部

副会長が締めた。



《後藤雅彦》

神道青年四国地区協議会 第十二回 神道行法錬成会

平成二十一年九月九日、神道青年四国地区協議会第十二回神道行法錬成会が石鎚神社にて開催された。四国四県の神道青年会会員の参加、それから私にとっては愛媛で初めての錬成会参加ということもあり、期待と不安が入り混じった参加であった。しかし不安が若干先行していた。

実は私、錬成会にちよつと苦い思い出があった。東京の神社で奉職中のことである。当時の職場の先輩より、明治神宮での大寒禊に参加しないか、とのお誘いを受けた。教養研修、雅楽研修、祭式研修、舞の研修等には参加したが錬成会にはまだ出たこと



て目を閉じて必死に大祓詞を唱えた。冷たく震えながらも、体や気持ちりが浄化され引き締まっていくのを感じた。

清々しく禊を終え、懇親会がアサヒビール園にて行われた。参加者と沢山お話を

がなかった。なるべく色々な研修に出ようと考えていたので良い機会と思い、私は快く承諾をした。しかし当日になり体調不良に。すでに申し込済みであること、当日キヤンセルは申し訳ないということで強行参加したのだが、その日に三十八度の熱が出てダウンしてしまった。次の日、仕事を休むことに・・・。

そんな不安をよそに、道彦の佐藤豊先生、助彦の後藤雅彦先生の丁寧な御指導の下に研修が滞りなく進んだ。全員で「ひふみ祓詞」、「十種神寶大御名」を唱え鎮魂し、外ではイエイつと気合をいれていざ入水。とても冷たく肩まで浸かるまで時間がかった。そして



会員研修会「救命講習」 AED・心肺蘇生法

《田窪大朗》

し、ビールも沢山進んだ。理由あって私は一次会で退席したが、ほとんどの方々は二次会で更に盛り上がりがあったらしい。

研修にて丁寧に優しく御指導をしてくださった先生方には感謝の気持ちでいっぱいであると同時に、錬成会に参加できたことはもちろんのこと、他県の神職の方々との交流ができたことはとても良い経験、勉強になった。またこの様な機会があれば参加したいと思う。

稲穂が黄金色に輝き始めた平成二十一年九月十六日、今回は松山市消防局南消防署から講師を招き、「救命講習」を行いました。

これは、心停止の傷病者を心肺蘇生法とAED（自動体外式除細動器）と呼ばれる装置で電気ショックを与え、救護するための知識と技能を身につける講習会です。日常生活にも役立つ講習会ということもあり、会員十七名が参加し、真剣に受講しました。私が初めて受講したのは平成七年のこと。当時はAEDもなく、主に心肺蘇生法

や負傷者救護方法などを学ぶもので、内容も多岐に亘り、専門的な知識が求められ、現場救命では心肺蘇生法が唯一の手段でした。

現在は、高機能で使いやすいAEDが開発され、公共施設をはじめ、不特定多数の人の出入りがある施設でも救多く普及し、人々の救命に対する考えも「早く救急車を呼んで運んでもらう」という「待ち」の感覚から、「自分たちでまず、救護する」という【始動】の感覚になってきています。

しかし、現場に偶然居合わせたとき、勇気をもってできるでしょうか。今回の講習会で、改めて感じたことは、

- ① 一歩踏み出す勇氣
- ② 瞬時の判断と指示
- ③ 最後まであきらめない強い心

折角、習得した知識や技能も、求められているときに使えないのでは意味がありませんし、「難しそうだから」といつて受講してなければ、現場ではただの傍観者になってしまう。自分のためにも、人のためにも、とても大切な講習会だと思います。

最近では、様々な方面からの講習依頼も多くなり、沢山の方に知ってもらおうようにと、内容も分かりやすくなっています。

また、心肺蘇生法やAED取扱方法に限らず、乳幼児に多い熱性痙攣の対処法や、熱中症予防などの説明もありました。



時には笑いのある講師先生のトークで和やかなムードの中、講習会を無事修了しました。青年神職としてのみならず、一社人として今何ができるのか、自分の中で一つ、答えが出たように感じました。

《高橋政裕》

天皇陛下御即位二十周年をお祝いする 国民祭典に奉仕して

平成二十一年十一月十二日

平成二十一年十一月十二日。畏くも皇居にて「即位の礼」が執り行われてから満二十年というこの日、国民挙ってお祝い的心を捧げる「天皇陛下御即位二十周年をお祝いする国民祭典」が皇居前広場に開催されました。この日は天候が心配されましたが、雨も降らず、肌寒い中ではありましたが、全国から三万人もの人々が集う大規模な祭典となりました。

私達青年神職は全国から百名を超える会員が集合し、会場の警備や誘導など多岐に渡り御奉仕をさせて頂きました。四国からは長曾我部監事(神青協 副会長)、徳島・市村会長、香川・柘植会長と私の四名で、主に二重橋前のパレード警備が割り当てられました。蛍光色の帽子をかぶり、スタッフ証を付けていましたので、警備だけでなく、色々な予定や時間の流れなどを尋ねられることもありました。特に多かったのは「EXILEは何時位からですか?」という質問でした・・・。

さて、奉祝パレードも全国各地からの伝統芸能や山車、子供たちによる鼓笛隊など多岐に渡り、また、全国各地の物産展や、浅草や神田の御神輿渡御なども催され、参列者の目と心を楽しませてくれました。そして午後五時からの祝賀式典では各界の著名人(学界・経済界・芸能界・スポーツ界など)も参加し、天皇陛下への奉祝の言葉を述べられ、私達も会場内への入場が許された為、モニター近くで参列することが出来ました。

日も暮れ、辺りも暗くなった午後六時三十分過ぎ、皇居二重橋に両陛下がお出ましになり、参列者が手に持つ提灯に灯された灯りが左右に揺れ、日の丸の小旗が一斉に振られました。総理の祝辞・奉祝歌の奉納・国歌君が代の斉唱。そして陛下よりのお言

葉。気温十二度という寒い中にも関わりませず「寒くは無かったでしょうか?」「楽しい一時をありがとう」と心温まるお言葉を賜りました。そして、納めとして参列者全員での聖寿万歳。日本人としてこの場所で、皇室の彌栄との思いを込めた聖寿万歳ができる事へ感謝の念を感じずにはいられませんでした。

当会の会員を代表して奉祝の「こころ」を捧げ、この様な素晴らしい式典に御奉仕できたことに感謝申し上げ、国民祭典奉仕のご報告とさせて頂きます。

《十亀博行》



三島由紀夫・森田必勝両烈士 追悼三十九周年慰霊祭斎行

平成二十一年十一月二十五日、午後三時に三島由紀夫・森田必勝両烈士追悼三十九周年慰霊祭が伊豫豆比古命神社の境内で、十亀会長を斎主とし、祭員、伶人、計九名の奉仕にて斎行されました。当日は晴天に恵まれ、長曽我部監事、日本会議愛媛県本部の方々が参列され、初めて「奉仕させて戴く私にとっては、またと無い機会を与えて戴きました。

以前の私は浅学無知であり、世間で云う三島事件の概要と三島由紀夫命が作家であり、彼が多様な活動家であったとしか理解しておりませんでした。今回、慰霊祭に携わるにあたって、私は近年差達した情報に、人々の口伝等を付け加え、独自に見解を深めようと試みしました。その成果から、三島由紀夫命の割腹前「檄文」を挙げ、述べさせて戴きます。

「檄文」を通読すると、多角的な視点から考察する必要があると理解できました。私が特に印象に残った二点を引用します。先ず、「諸官に与へられる任務は、悲しいかな、最終的には日本から来ないのだ。」を挙げます。この一文から、近年の問題が提起できます。アメリカの要請が背景となった

自衛隊のイラク派遣であります。三十年以上前からこの事実を予言していたことに驚愕の一言であります。

次に「今こそわれわれは生命尊重以上の価値の所在を諸君の目に見せてやる。」であります。現在においては理解し難い行動も国を思う純粋な心があったからではないかと考えられます。

今回、私は三島由紀夫・森田必勝両烈士追悼三十九周年慰霊祭を奉仕して、神職にとって必要不可欠な事柄を再確認、また今まで以上に深い内容であることを知り得ることができました。「世のため人のため」、「正しい日本の歴史の理解」、「日本独自の文化・伝統を守る」ことです。三十九年前の三島由紀夫・森田必勝両烈士の行動、思想を正しく理解して、風化させず、後世に伝えていくことが神職の務めであると考えさせられました。



《矢野泰二》

チラシ・ポスター・パンフレット等
各種印刷物お取り扱い致します

首藤印刷所

代表者 首藤 昭夫

〒七九三〇〇三〇

愛媛県西条市大町一五一七―二

電話 〇八九七―五五―三一八九

皆様からのご用心心より

お待ちしております

神青協創立六十周年記念事業

遷宮啓発研修会

平成二十一年十一月二十六・二十七日に神道青年全国協議会創立六十周年記念事業として、遷宮啓発研修会が神宮並びに鳥羽に於いて、約百名の全国の神道青年会会員が参集し行われました。

当会からは長曾我部監事と私の二名が出席参加致しました。

まず、この記念事業の一環として行われていました「知らう学ばうお米作り」事業で、全国の子供達が育て上げ収穫した新穀を、まず外宮神楽殿へ奉納し御垣内参拝。

その後内宮へ移動し、内宮神楽殿へ奉納し御垣内参拝、神楽殿にてお神楽を奉納し、無事全国から集められました新穀を神宮へ奉納することが出来ました。

その後、場所をエクスプロード鳥羽アネックスに移し、遷宮啓発研修会が行われました。

研修会講師に、作家のC・Wニコル先生、神宮参事の河合真如先生、(社)日本青年会議所副会頭の福井正興先生、全国氏子青年協議会副会長兼神宮式年遷宮特別委員会委員長長の鷹野尚志先生をお迎えし、春木会長をコーディネーターとして、パネルディスカッションが行われました。

講師先生方はそれぞれの立場から自然に

対する考え、神宮に受け継がれる日本のこころ、青年らしく在るべき姿、農業を取り巻く諸情勢についてお話をいただきました。その中で、C・Wニコル先生から「自然への愛」についてのお話の中で、「日本を愛し意識すること。全てのもの(自然・人・動物)が健康で安全で美しくあるべきである。愛すること・汗をかくことが大切である。」と仰いました。先生は自ら荒廃した森を購入し、自然を取り戻し、生態系を整える為に活動されています。正に有言実行であり、見習うべき点が多々ありました。

その夜の交歓会では各々精力的に各県・各単位の活動について話し合いながら夜が更けていきました。

翌二十七日は「神宮の周知」「参宮の推進」について六班に分かれ、単位会遷宮委員が司会、意見をとり纏め発表をしました。

各班共に若い世代に如何にして神宮に目を向けてもらうか。その取り組み方に様々な意見が出されました。これら意見を各単位会に持ち帰り、活動していくことが大切である。と締め括り閉会となりました。

「言うは易く行うは難し」という言葉があるように、難しいことはありませんが、C・Wニコル先生のように何か活動を起こさなければ、何も変わっていかないと感じました。

《十亀雅史》

神道青年四国地区協議会 第五回親睦ボウリング大会

平成二十一年十二月九日 香川県にて

神道青年四国地区協議会役員会に引き続き、親睦ボウリング大会が多くの会員の参加により行われました。

各レーンにて2ゲームの個人戦、マイボウリングセット持参の方から、数年ぶりにボウリングをする人など、レベル的には、かなりの差がありました。豪華景品を目指し和気藹々の雰囲気が進められました。

個人戦終了後、県の対抗戦となり、愛媛神青よりは控えめな会員の中、十亀会長、三輪田副会長が代表となり参戦。

十亀会長のピンを砕くかの豪腕熟投、三輪田副会長の狙いすました軟投で、周囲の雰囲気も微妙な中、ハイスコアを記録、見事に優勝し愛媛県に会長カップを持ち帰ることとなりました。

ボウリング大会終了後、香川県神道青年会のおもてなしにて懇親会が催され、香川県神道青年会OBの諸先輩方も参加いただき、各情報交換も含め互いに親睦の輪を広げ深めることが出来ました。

末筆ながら、今回お世話いただきました香川県神道青年会の皆様方に御礼申し上げます。報告と致します。

《佐々木規人》

結婚報告



吹揚神社 榎宜

田窪 大朗

ゆかり

六月六日、吹揚神社にて挙式、今治国際ホテルにて披露宴を行いました。

四月に実家の吹揚神社に戻ったばかりです。夫として、また神職としてまだまだ至らないことばかりです。これからの人生、山あり谷ありあると思いますが、二人で力を合わせて頑張っていく所存です。みなさま、ご指導の程よろしくお願いいたします。

新入会員紹介

喜多浦八幡大神社 榎宜 馬越 直哉



愛媛・しまなみでの暮らし、榎宜としての奉職、初めてづくしの事ばかりです。

惑うこともありましたが、諸先輩方のご指導を賜り「随神の道」を着実に歩んでいきたいと思っております。宜しくお願い致します。

●新年研修会・新年互礼会のご案内●

今年度の新年研修会はマナー講座第二弾として、「接客接遇」を研修いたします。あいさつからご案内、お茶出しなど、気持ち良く社内に入っていたいただき、気持ち良く帰って頂けるように、最初から最後まであらゆる場面において、「もてなしの心」あふれる接客接遇に努める為の基本を学んでいきたいと思っております。
是非ご参加下さいますようお願い申し上げます。

【日時】

平成二十二年一月十八日(月曜日・先負) 午後四時より 新年研修会

午後六時三十分より新年互礼会

【場所】

国際ホテル松山

【講師紹介】



榎山ブライダルサービス 取締役 門田 洋子 氏

昭和四十年

南海放送アナウンサーとして入社

主な担当番組

ラジオ「夜のバラード」「ワイヤング」

テレビ「愛媛の広場」「南海サロン」

昭和四十九年 南海放送退社

○四国郵政研修所・愛媛県研修所講師

○その他企業、団体等の社員教育

○ビジネスマナー研修講師

○現在の担当番組 RNBラジオ

編集後記

昨年、臨時総会の役員改選で理事の選任を受け、一年が経とうとしています。一年・・・早いですね・・・しかし、早い中にも県内外の多くの青年会の方々とお会いする機会をいただき、視野も広がっております。ありがとうございます。

また、伊勢の地で行われました遷宮啓発研修会のC・Wニコル先生のお話の中で、「荒廃した森に愛情をかけると、九種しか育っていなかった山菜が、今では一三〇種を超えて自然繁殖した。」という話を聞くと、驚きと同時に、自然も我々同様生きていくなど改めて感じました。また、「三人以上が集まって行動すると、大きな力になる。」とも話されました。年頭の御挨拶の会長の言葉にもありますように、今後の青年会活動も、役員のみならず、多くの会員の方に参加してもらい、共に活動していきたいと思えます。必ず大きな力になると信じて・・・。

今年も「あつっ！」という間に過ぎることの無いよう、役員・会員共に気を引き締めて諸行事に取り組んで参ります。

神縁・人縁、今年はそのような「縁」があるでしょう・・・。

本年もご指導、ご鞭撻をいただきますよう、宜しく申し上げます。

(雅)